

要望 11
プレパパ・プレママや新生児を抱える子育て世帯への支援について 現在、区役所内で実施されている「うえるかむ Baby！プレママ講座」や「ぴよぴよらんど」など、これから子育てをスタートさせていく世帯が、楽しみや不安など様々な要素がある中で、出会いや共感、共有できる場として有意義な事業であると認識している。そこで、本取組みを区役所以外の子育て支援施設等での開催を検討いただきたい。
理由
区役所から遠方にお住まいの方は物理的な距離の問題で安易に参加しにくい面もあると思われるため、区役所以外の地域でもこの事業が開催されることで、子育ての不安感や負担感を和らげるとともに、孤立しがちな子育て世帯をつなげる一助となり、児童虐待などによる痛ましい出来事の予防にもつながることではないかと考える。
回答
子育て支援の様々な取組みが、身近な施設で開催されることは、利便性も考えて望ましいと考えます。しかしながら「ぴよぴよらんど」は生後3か月までの母子を対象にしているため、安全面を考慮し従事者以外のバックアップ体制も整える必要性から区役所以外での開催は難しいと思われます。また、現行の「うえるかむ Baby！プレママ講座」で行っている沐浴体験のためには多数の準備品が必要なため（人形8体、沐浴バス4個、タオル類多数等）、区役所以外の場所での開催に当たっては、講座内容の検討が必要となります。子ども・子育てプラザ等の子育て支援施設との調整を図ってまいります。 現在、出産直後から不安の強い母親に対しては保健師や助産師の個別支援を充実させ、その後地域の子育てサークルにつなげていくよう支援を行っています。引き続き充実に努めてまいります。
担当：港区役所保健福祉課

令和元年度 港区子育て支援専門部会からの要望

要望 12
こどもの貧困対策として平成 30 年度から取り組んでいる「こどもサポートネット」事業でどのようなケースがどのような支援につながっているかの実績と取組みの中から見えてきたニーズ（どのような資源、仕組みが不足しているか）、更に今後の取組みについてお聞かせいただきたい。
理由
モデル事業として実施してきた「こどもサポートネット」について、2 年間の取組みから見えてきた課題を整理し、支援が必要な子どもや家庭を適切な支援につないでいくことで、世帯の状況にかかわらず全てのこどもが未来を切り開いていけるよう支援を行う必要があると考える。
回答
平成 28 年度に実施した「子どもの生活に関する実態調査」の結果を踏まえ、支援の必要な子どもや子育て世帯には、複合的な課題が存在することが多く、こどもとその世帯の両方に着目して課題を発見し、適切な支援につなぐ仕組みとして平成 30 年度からこどもサポートネットを実施してきました。 こどもが一日の多くの時間を過ごす学校（小・中学校）がその課題を「見える化」し、教職員や区役所に配置するこどもサポートネット推進員、スクールソーシャルワーカー（SSW）等によりスクリーニング会議を行い、課題の共有と教育分野・福祉分野から支援の見立てを行い、学校と区役所が連携して子どもとその世帯が抱える課題に対し総合的な支援を実施するものです。 具体には各種福祉制度の紹介や申請支援、学習や進路に関する相談から不登校サポート等を行う自立アシスト事業へのつなぎ、地域で見守っていただくために地域食堂などの居場所への案内といったこどもや家庭がいずれかの支援や地域等につなげることを第 1 の目的としております。 平成 30 年度は対象となった 115 ケースのうち 59 件が生活習慣や学習習慣の改善につながり（令和 2 年 1 月現在、83 ケース解決改善 16 件） 学校生活や日常生活態度の好転や課題解決に至っています。ただ、一度好転してもまた状況が変わるなど、多くは複合的かつ微妙で慎重な取扱いを要する課題を有するケースのため、支援の必要な世帯に本事業の主旨を理解いただき具体的な制度につなげるためには、相当な時間と調整を要します。そのような中でも、解決が難しい不登校について、自立アシスト事業を活用したことで、改善が見られたケースが複数あり一つの成果と考えます。今後も学校と区役所の強力な連携の下、地域の協力を得ながら取り組んでまいります。
担当：港区役所保健福祉課